

今ならまだ間に合う自然再生の道!

●このとりの里・野田を訪ねて!

今日13日は、久喜麗和会(会長：眞田忠雄様)と春日部地区浦高会(会長：根本 崇様)の合同企画旅行「このとりの里・野田を訪ねる旅」でした。



【梅郷駅東口にてバスを待つ】



【江川地区に広がる市民農園・水田】

今回の行程は、9時30分に東武アーバンパークライン「梅郷駅」に集合して、茨城急行バスに乗り約12分で「梅郷住宅」へ、そこから約10分歩いて利根運河に面した江川地区にある「コウノトリの里管理棟」で3つのテーマについて約2時間に亘り勉強させていただきました。参加者は19名+お子さん2名でした。その後、12時45分から約1時間、「クリアビューホテル」にてランチブッフェで懇親を深めました。

◆学習1：利根運河について



【荒井様の話を伺う会員】



最初に野田市と流山市、柏市の境を流れる「利根運河」の歴史と役割について国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所副所長の荒井満様からお話を伺いました。明治23年に開通した「利根運河」は昭和16年まで舟運として利用され、その後60年間は治水と利水目的で、そして現在はさまざまな顔と役割を持つエコパークとして活用されて現在に至っています。【詳細は次号以降で】

今回の行程は、9時30分に東武アーバンパークライン「梅郷駅」に集合して、茨城急行バスに乗り約12分で「梅郷住宅」へ、そこから約10分歩いて利根運河に面した江川地区にある「コウノトリの里管理棟」で3つのテーマについて約2時間に亘り勉強させていただきました。

最初に野田市と流山市、柏市の境を流れる「利根運河」の歴史と役割について国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所副所長の荒井満様からお話を伺いました。明治23年に開通した「利根運河」は昭和16年まで舟運として利用され、その後60年間は治水と利水目的で、そして現在はさまざまな顔と役割を持つエコパークとして活用されて現在に至っています。【詳細は次号以降で】

◆学習2：自然と共生する地域づくりについて

続いて(株)野田自然共生ファーム常務取締役の木全敏夫様から根本・前野田市長(=春日部地区浦高会会長)が12年前から取り

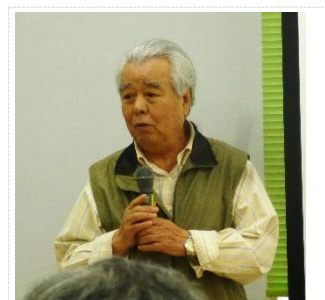


【木全様の話を伺う】

組んで来られた「自然と共生する地域づくり～自然再生・生物多様性のシンボル コウノトリ～」と題して、江川地区の取り組み、コウノトリの飼育などについてお話を伺いました。【詳細は次号以降で】

◆学習3：福田村事件について

関東大震災の直後に起こった痛ましい事件「福田村事件」について、元野田市職員で福田村事件追悼慰霊碑保存会の市川正廣様からお話を伺いました。【詳細は次号以降で】



【お話される市川様】

◆学習4：コウノトリを見る



【香田の写真】



【大島齋礼様のアートの写真】

◆昼食・懇親会を終えて



【懇親会を終えての集合写真】

根本様が提唱された「今ならまだ間に合う自然再生」の取り組みを実際に見せていただき、皆さんそれぞれに大きな収穫をいただいた旅でした。企画・調整を行っていただいた**根本会長に感謝です!**